住宅相談窓口事業が軌道に

建材店と相乗効果

住活協

全国住宅産業地域活性化協議会（住活協、加藤秀司会長）は、開始から5年となる消費者向け住宅相談窓口事業「じゅうｍａｄｏ」の6支部での活動実績報告をまとめた。運営母体の地域建材店事業との相乗効果が、人材育成、地域の行政などとの連携、取引先工務店との関係強化などに寄与していることを示した。

住活協は地域の工務店グループを正会員とし、地域建材流通が事務局としてサポートする全国組織。谷野利宏じゅうｍａｄｏ部会長（ミヨシ産業）は「地域で安心・安全な家づくりのできる仕組みを増やしていくことが建材店にとっても大切」と話す。6カ月間に2泊3日の集合研修を6回受講したアドバイザーが、一般社団法人の非営利活動として住宅購入者へライフプランを提案し、住宅ローンなど適正な取得金額で家づくりを進めるようアドバイスする。

谷野　部会長

こうした相談窓口を岡崎（岡崎製材）、魚津（ヤマイチ）、彦根（滋賀原木）、米子（ミヨシ産業）、宇部（三和）、長野（炭平コーポレーション）に設けている。住宅購入予定者を会員とし、全国に約500会員を擁する。

相談窓口経由で登録事業者（工務店）が契約した新築住宅は2016年10、17年13、18年22と増えている。相談は無料で、紹介料などを取らず、公正な立場で安心・安全な家づくりに取り組む工務店を紹介する仕組みを構築してきた。

米子支部では、アドバイザー資格を男女6人が取得。相談窓口は兼務による2人体制で運営してきた。事務職で入社した女性社員が入社1～2年でじゅうｍａｄｏのアドバイザーになり、研修を受け、社内の各部門のサポートを受けながら成長している。育児休暇取得などがあっても6人体制で乗り切っている。アドバイザー資格の取得を機に営業の担当を持った女性社員は社内でも売り上げ上位に入り、けんちく女子の会の運営や社内行事の司会など幅広く活躍しているという。非営利活動として地元自治体にイベントの後援依頼をすることで、行政との連携を強める事例もあり、企業活動とは一線を画した取り組みが地域で評価されるようになってきた。

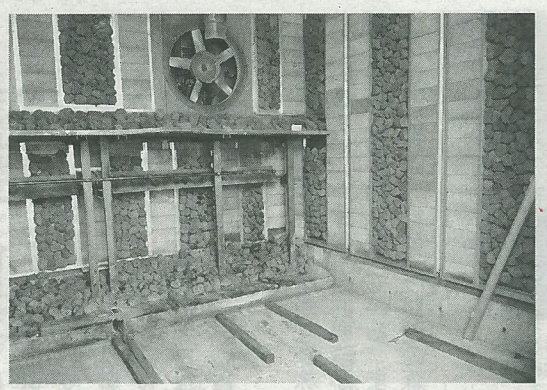
今後は、5年間の実績を踏まえて導入や運営に関する費用を見直す。20年度には新規相談窓口としての取り組み先を募集し、導入研修などの計画を進めていく方針だ。

谷野部会長は「住宅相談窓口を営利事業で取り組むところが増えている。ただ、見込み客を営業に引き継いで紹介料を稼ぐビジネスとは違い、地域で安心・安全な家づくりを推進できるような取り組みを広めていきたい。5年間、事業を通じてノウハウを蓄積し、ようやく仲間に紹介できるような事業になった」と話している。

ケイ素含有石を乾燥に活用

反り・中割れを抑え仕上がり安定

フルタニランバー


抗火石を取り入れた乾燥機内部

フルタニランバー（石川県金沢市、古谷隆明社長）は今春に同社の既存乾燥機を改良し、新乾燥システムとして乾燥能力を高め、製品需要に応えている。

改良のポイントは、ケイ素を多く含んだ抗火石という多孔質の石材を利用していることだ。抗火石は伊豆の天城連山でのみ採取できる貴重な石材で、同社は抗火石を研究する企業などとのつながりを通じ、乾燥システムとして導入した。

抗火石を敷き詰めた乾燥機にボイラーで蒸気を送ることで、抗火石のケイ素と水が結合し、同時に水の粒子が細かくなる。ケイ素を含む水の粒子は木の導管より小さくなるため、木材内部に浸透しやすい。木材はケイ素が浸透すると中から収縮を起こし、硬くなる。木材は内部から乾燥されていくため中割れが抑えられ、高耐久の乾燥材に仕上がる仕組みだ。

同社の乾燥機では、丸太の挽き立てや丸太での乾燥も可能。同社では、これまでより短時間で質の高い乾燥ができる仕組みとして、新乾燥システムを取り入れた。自社製品だけでなく、乾燥依頼にも応じている。

同社は海外との直接取引で木材を仕入れ、集成材、フローリング、芯材、ムク板など、樹種・品目とも多彩に取り扱う。在庫力が高く、顧客ニーズに合わせた製品加工にも応じている。近年は、受注・在庫管理・配送の各段階でのＩｏＴ化にも力を入れている。

「ニュー グラン フリー」発売

上質感あふれる印象

三井ホーム

三井ホーム（東京都、池田明社長）は11月16日から「ニューグラン フリー」の販売を始めた。2011年に発表した同社モダンデザインの代表格「グラン フリー」に天然木を用い、高さ3ｍの木製大開口サッシでリビングと半戸外空間（ラナイ）をつなげた。水平ラインを強調し、縦に伸びる2本のバーチカルウォールが特徴的だ。

自然とモダンを融合させた

外壁・軒天井には天然木のウエスタンレッドシダーを用い、サッシには北欧パイン材を採用。都市にいながらも自然を感じ、リゾートにいるかのように居心地の良いインテリアスタイル「ラグジュアリーウッドスタイル」を提案している。ヘリンボーン張りのムクフロアや、木製サッシ、壁・天井のピーリングにより、木質感を感じられる室内としている。

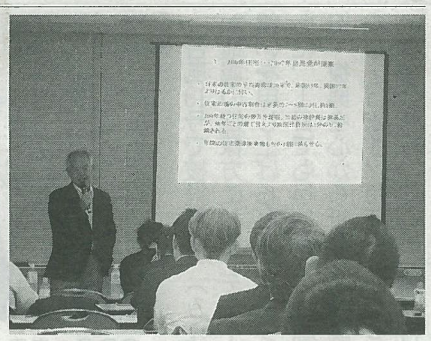
ティンボア認定10周年セミナー

二重真空法を解説

ホウ素系保存剤普及協会

ホウ素系木材保存剤普及協会（東京都、浅葉健介代表理事）は11月22日、米国大使館の後援を受け、ティンボア認定10周年記念セミナーを開いた。

荒川民雄氏が「二重真空法によるプレカットのティンボア防腐防蟻処理について」と題して解説。「現在はアメリカカンザイシロアリの被害が東京などでも見られるようになり、より高い防腐を屋根裏までする必要性がある。より多くのホウ酸を構造材に入れるため、ニュージーランドでは既に二重真空法などが利用されている。この二重真空法を行ううえで、特注の防腐処理の釜が必要となるが、国内の木材乾燥機メーカーの協力を手配できるようになっている」と述べた。


ホウ酸活用の歴史について解説した

一方、浅葉代表理事は現場処理の実情を語り、現場施工、二重真空法のそれぞれの良さを解説した。協会では今後もホウ酸の必要性を各地で訴えていく方針だ。

マイナンバーカード対応記帳台

福岡市中央区役所に設置

内田洋行

内田洋行（東京都、大久保昇社長）が開発した「マイナンバーカード対応記帳台」がこのほど、福岡市中央区役所に採用され、3日から運用を始めた。マイナンバーカードを読み込ませるだけで、各種証明書などの申請書を容易に作成できる。政令市では初めての採用となった。

福岡市中央区役所に設置された記帳台

2016年からマイナンバーカードの交付が始まり、国は23年3月末までにほとんどの住民がマイナンバーカードを保有することを計画している。

内田洋行は14年にガバメント推進部を設置し、マイナンバーカードを活用した住民サービス向上支援に取り組んできた。

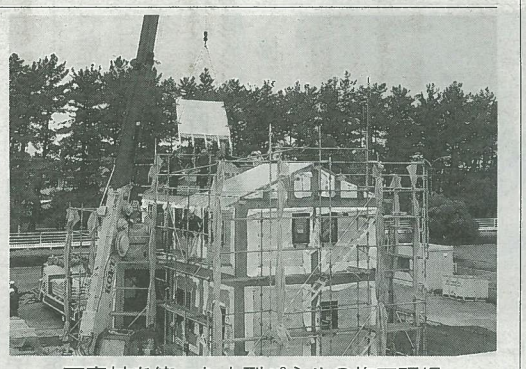
福岡市中央区役所1階ロビーにマイナンバーカード利用コーナーが開設され、記帳台2台が設置された。

天竜材大型パネル2棟目が上棟へ

グラウンド・ワークス

グラウンド・ワークス（静岡県袋井市、山下英俊社長）は、ムクの天竜材による大型パネルを使った住宅を12月下旬に上棟する。10月末に続き2棟目となり、特殊な乾燥方式による天竜材を使った大型パネルを製作する。

前回はアマノで製材・乾燥した天竜材を、大森木材でプレカットし、テクノエフアンドシーで大型パネルに組み立てた。


天竜材を使った大型パネルの施工現場

乾燥技術は、Ｊパネルを開発した大石千尋氏によるＳドライを用いた。独自の過熱蒸気式の乾燥を行い、内部割れの少ない乾燥材を供給できるという。

ムク材仕様に対しては地域工務店の関心が高く、前回の見学会には70人近い見学者が訪れた。

団結しより良い業界へ

九州木材青壮年連合鹿児島大会

九州木材青壮年連合会（佐藤哲嗣会長）は11月30日、同会員鹿児島大会（田之頭隆文大会実行委員長）を鹿児島市内で開いた。九州各県の会員や同会ＯＢなど計140人前後が出席し、親睦を深めた。

同会は今年度、「やるばい！～心ひとつに九州をひとつに」をスローガンに、木材の普及啓発活動や研修、レクリエーションを通じて会員のスキル向上などに取り組んでいる。また今大会は、2021年6月に控える日本木材青壮年団体連合会の全国会員大会の熊本での開催に向け、機運を高める場にもなった。

「心ひとつに九州をひとつに」と呼び掛ける佐藤会長

佐藤会長はあいさつで「仕事や木青連の活動を通じてより良い木材界をつくり、次世代に継承していかなければならない。良い仕事は大切な人を思うことから始まる。その人のために良い業界をつくっていこう」と呼び掛けた。

来賓として九州森林管理局の原田隆行局長や日本木青連の亀山武弘会長らが祝辞を述べた。かごしま探検の会の東川隆太郎代表理事も「鹿児島とつながる九州の歴史ものがたり～木材を中心に～」と題して基調講演を行った。